

令和7年も4ヶ月が過ぎました。在留邦人の皆様におかれては、新年度開始以降1ヶ月が過ぎ、益々ご多忙のことと存じます。

4月17日からは、米国・ワシントンにおいて、日米間での交渉が開始しました。相互に利益がもたらされる「ディール」が望めます。また、マレーシアに目を向ければ、15日から17日まで習近平・中国国家主席が訪問しました。米国の相互関税90日間のモラトリアムの中で、各国とも、個々の国家利益を見据えての動きが活発化しております。ペナン州について言えば、4月30日で現州長が退任し、5月1日にラムリ・ナタリブ新州長（元ペラ州首席大臣・元連邦下院議長）が着任しました。北部6州においては、4月26日の州議会補欠選挙では与党側が勝利を収めましたが、本格的な選挙の季節はまだ遠く、各州政府とも、足元の統治に力を入れて行くところだと思えます。

我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかり働いていきたいと思っています。

以下、4月の出来事と総領事館の主な活動報告をいたします。

政治・行政・経済面では、ペナン州政府青年・スポーツ担当のEXOダニエル・グーイの来訪（11日）、ラウ・ペナン州議会議長との懇談（11日）、ペナン開発局総裁の来訪（23日）、LRTプロジェクト関係者との懇談（25日）、ラムリ・ナタリブ新ペナン州長（元ペラ州首席大臣・元連邦下院議長）の任命（24日）、リム・フィ・イン財務副大臣への表敬（26日）などがありました。また、28日にはペナン州長送別夕食会に出席しました。5月1日には、ラムリ・ナタリブ第9代州長の着任式に出席しました。今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

日本人社会との関係では、ペナン日本人補習校入学式（5日）、ペナン日本人学校入学式（15日）、ペナン日本人会理事会（29日）への出席などがありました。また、ペナンで操業する日本企業を訪問させていただきました。

入学式におきましては、僭越ながら、日本人学校などで学ぶことの意義についてお話をさせていただきました。後の世代の育成に心を砕いてきた当地の先輩の皆様に思いを馳せ、引き続き、次代の日本を担うお子さま達の健やかな成長を祈るばかりです。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも、率直なご意見を頂ければ幸いです。

文化交流・報道・学術交流関係では、光華日報編集長との面談（2日）、邱公司イベントへの参加（5日）、USM研究者との面談（8日及び10日）、「The Star」紙編集者等との面談（9日）、「Penang International JICA Judo Championship」開会式（12日）、ペナン

州要人等を招いての公邸での日本文化紹介行事（１８日）の開催、ペナン盆踊り実行委員会（２４日）出席、ペラ州タイピンにおける「ロボコン」大会出席（２７日）などがありました。

先般、総領事館管轄地域に７名派遣された「日本語パートナー」の皆様は、各日地域の中等学校等において日本語教育助手として、日本語教育の促進及び日本文化紹介のために活躍しています。総領事館としては今後とも、現地マレーシア社会と多角的に付き合い、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。

ペナン外への出張は、クランタン州コタバル市訪問（１３日から１４日）、ペルリス州カンガー市訪問（１８日）、ペラ州タイピン出張（２７日）などがありました。コタバル

においては州副首席大臣等、カンガーにおいては州首席大臣に表敬することができました。今後とも、管轄地域を広く訪問することによって、マレーシアを多角的に理解し、今後の業務に繋げていきたいと存じます。

今後とも、日本とマレーシア（北部６州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

なお、私事ではございますが、私は、５月３日から１９日まで一時帰国いたします。日本では私事の他に、大阪・豊橋などを訪問し、また、マレーシア・東南アジアの専門家との意見交換等をしてまいります。在ペナン総領事館管内の日本人の皆様及び日本企業の皆様の役に立つフィードバックができれば幸いです。

不在中には、黒江首席領事を初めとする当館各担当に色々お申し付けいただければ幸いです。



(4月5日。ライトアップされる「邱公司」)